

地区別防災カルテ



◆地区別防災カルテとは
市民や自主防災組織等が、地域の危険箇所や避難施設等を把握し、災害時の行動について考えるための基礎情報を小学校区単位でまとめたものです。

◆活用方法
これらの情報を基に、事前にどのような準備をすれば良いか、災害時にはどのように行動すれば良いかについて、「個人で」「家族で」「地域で」あらかじめ考えておきましょう。

様式1:施設や人口、建物、避難所等の分布など

様式1 人口、建物、避難所等の施設、災害危険性の評価

〇〇小学校区

●住所名称

〒100-0001	〒100-0002
上野1-1丁目	上野1-2丁目
上野1-3丁目	上野1-4丁目
新大塚	新大塚
出来島	出来島
出来島1-2丁目	出来島1-3丁目
出来島1-4丁目	出来島1-5丁目
出来島1-6丁目	出来島1-7丁目
出来島1-8丁目	出来島1-9丁目

●地区内の避難所・津波避難ビルなど

施設名	種別	階数	高さ	津波	避難	備考
(1) 津波避難ビル(場所)	10.0	4	○	3階以上	2階以上	土砂災害
(2) 東青山小学校	0.3	4	○	3階以上	2階以上	○
(3) 上山小学校	0.1	4	○	3階以上	2階以上	○

●地区外の避難所・津波避難ビルなど

施設名	種別	階数	高さ	津波	避難	備考
(1) 避難所(1)津波避難ビル(場所)	10.0	4	○	3階以上	2階以上	土砂災害
(2) 東青山小学校	0.3	4	○	3階以上	2階以上	○
(3) 上山小学校	0.1	4	○	3階以上	2階以上	○

●人口

年齢	人数	割合	市の割合
総人口	12,693人	8.3%	5.5%
0~4歳	686人	5.4%	4.0%
5~14歳	1,203人	9.5%	8.5%
15~74歳	9,708人	76.7%	74.6%
75歳以上	1,096人	8.3%	12.6%
65歳以上人口	2,424人	18.1%	26.0%
世帯数	5,420世帯		
二世帯世帯人口	2,328人	18.3%	23.1%
人口密度	5,307人/km ²		1,198人/km ²
世帯数/km ²	5.0		1.1
世帯率	22,380人	176.8%	

地域の防災特性として

- 人口 [出典] 住民基本台帳(H26.9.30),H22国勢調査
- 建物関連指標 [出典] 都市計画基礎調査(H25)
- 避難所等の分布(H27.4.1現在)
- 災害危険性の評価 などをまとめています。

様式2:想定される地震の震度分布

様式2 震度分布図・液化化しやすさ

〇〇小学校区

●震度分布図

●液化化しやすさ

地域	震度	液化化しやすさ
長岡平野	4.46	6.76
西新井	4.46	6.76
新津	4.46	6.76
月岡	4.46	6.76

想定される地震の基礎情報や震度分布。

様式3:防災地図

様式3 防災地図

〇〇小学校区

避難路等を検討するために、避難所や津波避難ビル等の位置(H27.4.1現在)を地図上におとしたものです。

[出典] 基盤の地図(H20,H25,H26)

様式4:航空写真

様式4 航空写真

〇〇小学校区

植生や街並みなどを把握し、火災等の避難路の検討などに活用するためのものです。

[出典] 航空写真(H26.4現在)

様式5:標高分布図

様式5 標高分布図

〇〇小学校区

●標高(m)

標高	色
~ -1m	青
-1~0m	水色
0~1m	浅青
1~2m	緑
2~3m	黄緑
3~4m	黄
4~5m	オレンジ
5~6m	赤
6~8m	赤
8~10m	赤
10~12m	赤
12~14m	赤
14m~	赤

津波や洪水の避難計画などに活用するため、標高の違いを色分けした地図に、避難所や津波避難ビル等の位置(H27.4.1現在)を地図上におとしたものです。

[出典] 基盤の地図(H20,H25,H26), 5mメッシュDEM(国土地理院,H25)

様式6:風水害対策地図

様式6-2 風水害(洪水・土砂災害)対策地図(信濃川下流)

〇〇小学校区

●凡例

浸水深	色
0.5m未満	黄
0.5~1.0m	緑
1.0~2.0m	青
2.0~5.0m	水色
5.0m以上	紫

風水害に対する避難計画などに活用するため、河川ごとの浸水想定区域や土砂災害警戒区域等に避難所等の位置(H27.4.1現在)を地図上で重ねたものです。

[出典] 基盤の地図(H20,H25,H26),浸水想定区域(国土交通省H14,18,新潟県H16~21),土砂災害警戒区域等(H27.3現在)

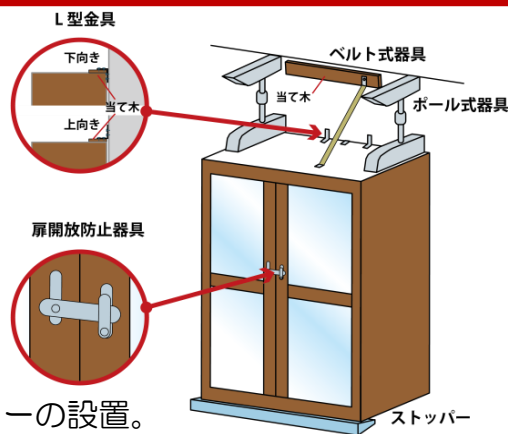
※津波災害対策地図については、新潟県が津波浸水想定を見直しているところであり、新たな浸水想定が公表された後、追加作成する予定です。

●地震に備えて

◆家屋や家の中の安全対策

死者・負傷者を減らすほか、避難路を確保するためにも重要です。

- 家屋倒壊を防ぐための建物の耐震化。
- 家具や大型家電の転倒防止。
- 市販の透明フィルムを貼るなど、ガラスの飛散防止。
- 電気器具による火災を防ぐための感震ブレーカーの設置。



◆避難路・避難方法

自宅や学校・職場、通勤・通学路等が崩れやブロック塀の倒壊など、危険な箇所はありませんか？

- 様式3,4,5の地図などを使い、あらかじめ、避難方法や避難路等について家族や地域で確認しておきましょう。

★津波の危険がある地域では★

すぐに高台や津波避難ビルに逃げましょう

◆身の守り方

ぐらっときたら、まず我が身の安全・家族の安全！

揺れがおさまるまで丈夫な机の下などで身を守りましょう。



にいがた防災アプリ

スマートフォンの地図上で現在地から最寄りの避難所の方向を表示できます。
【ダウンロード方法】
Android端末はGooglePlay、iOS端末はAppstoreにて「にいがた防災アプリ」で検索

●大雨や台風に向けて

◆避難路・避難方法

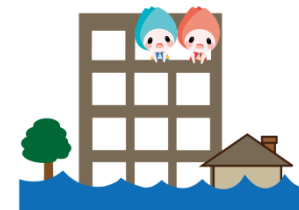
<事前準備>

自宅や学校・職場、通勤・通学路等が崩れや冠水しやすい箇所など危険な箇所はありませんか？

→ 様式5,6の地図などを使って、標高や浸水被害、土砂災害の影響を受ける地域を把握し、大雨が予想されるときや大雨が降り始めたときの行動を決めておきましょう。

<台風の接近・大雨が降ったら>

市役所からの避難情報や雨の降り方などに注意して、避難を始めましょう。夜間や強い雨の間の避難はかえって危険です。外に出ることが危険な時は、自宅や丈夫な建物に留まることを考えましょう。



◆情報入手方法

気象情報や河川の水位情報等の収集方法、市役所が発信する避難情報の入手方法を事前に確認しておきましょう。

登録はこちらから！



にいがた防災メール

◆水路掃除などの予防

自宅周辺の水路等を掃除し、水の流れを良くしておきましょう。土のう・水のうを準備し、使い方などを訓練で確認しておきましょう。



●さまざまな災害に備えて（共通）

◆家族との連絡方法

大きな災害が発生すると、交通機関が麻痺したり、電話が通じなくなる可能性があります。

→ 日ごろから複数の連絡方法を確認し、集合場所を決めておくなど、家族と話し合っておきましょう。

◆備蓄

大きな災害が発生すると、災害発生から数日間は支援の手が回りません。

→ 必要最低限の物資をリュックサックなどに詰め、非常持ち出し品の事前準備をしておきましょう。

→ 家族が必要な量の水や食料、医薬品などを最低でも3日分は、備蓄しておきましょう。

いつも使っているレトルト食品や缶詰などを多めに購入し、使ったら買い足す「循環備蓄」がお勧めです。

◆要配慮者への支援

ご近所に、高齢者や乳幼児、障がい者など、配慮が必要な方は、いらっしゃいませんか？

普段から配慮が必要な方に気を配り、見守りましょう。また、避難時や避難所では積極的に助け合いましょう。

◆ペットの避難

避難所にはさまざまな方が避難されるため、ペット同伴で避難所に避難する場合、屋内への持ち込みは状況に応じた判断となります。

災害時に備えて、キャリーバッグに普段から慣れさせておいたり、ペットの食料や引き綱、手入れ用品なども準備しておきましょう。

災害用伝言ダイヤル「171」をダイヤルし、安否情報等を録音、再生することができるよ。



事前準備が大事！



非常持ち出し品一覧

- 食料品など
非常食、飲料水、多機能ナイフ
- 防災用品
ホイッスル、軍手、ヘルメット
- 貴重品
現金（10円玉を多めに）、通帳、印鑑、健康保険証のコピー
- 救急用品
持病薬、常備薬、救急セット、お薬手帳
- 衛生用品
携帯トイレ、ウェットティッシュ、紙おむつ、生理用品、マスク
- 衣料品
上着、下着、雨具
- その他
懐中電灯、予備電池、ライター、携帯ラジオ、使い捨てカイロ、タオル など